

感動一点の場

『無題』
1961年 小川原 脩 画

1958年の夏に、倶知安町内の峠下小学校の児童たちが数個の石器を見つけたことで遺跡調査が始まり、小川原脩も発掘に参加していました。出土した土器や石器から考古学に関心を持った小川原は、1950年に発見された余市町のフゴッペ洞窟にも足を運びました。発掘現場で見た太古の人々のテクノロジーと感性は小川原の創作にも強い影響を与え、遺物や砂岩壁に刻まれた刻画をモチーフに数十点描き、その頃小川原と仲間たちが発足した「麓彩会」に次々と作品を発表しました。

画面の上部には、茶色を混ぜた白い絵の具が荒々しいタッチで帯状に塗っており、その下には赤い絵の具でいびつな四角形が描かれています。ペインティングナイフの底面にたっぷり絵の具をすくいとり、キャンバスに押し当ててスライドさせた跡が、画面のモチーフを凹凸のある硬質で力強いものに仕上げています。

終戦の年郷里に引き揚げてからは、風景や身近な動物をモチーフに作品を描いた小川原でしたが、この作品では古代の人々の暮らしや情景、精神性を抽象的に表現して後志の原始の美を描いています。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）



石臼

石臼は、大豆、ソバ、小麦、米、トウモロコシなどを粉にする道具で、2千年以上前に中央アジアで発明されたといわれ、その後日本に伝わり、江戸時代には庶民に普及しました。

倶知安では明治の頃から使われ、大正5年発行の『倶知安史』（山田羊麓著）には、「明治36年巽に入地した川上昇五郎は、『いまの宮本さんの畠は、まだ原始林だった。一面、熊笹のヤブで、ササの実がたくさんなり何升も実をとった。食料のなかったころなので、冬になると“ひきうす”で粉にしてダンゴにして食べた。』とか、「明治の頃の町内の正油醸造の話として『ダイズをイリ、それを粉にひいたなかに、五升釜でコムギをいり、ひき臼でひいてつくったコウジをまぜ、塩水につける』と書かれています。

石臼の仕組みは、上臼と下臼が軸でつながり、両方が接する面には目が刻まれ、上臼を遺木で回しながら上臼の穴に穀物を入れると、上下の臼の間で穀物が砕かれ、隙間から粉になって出てくるというものです。

石臼は各地で製作され地域ごとに違いがあり、たとえば、「臼面の刻みが東海から四国までが8区画、関東以北と九州が6区画」、「区画の並びが時計回りか反時計回り」、「下臼面が平面か膨らんでいるか」などありますので、よく観察して違いを見つけると面白いですよ。



文：今井 真司（倶知安風土館 学芸補助員）

ふるさと探訪

485回

展覧会のお知らせ

■第1展示室

しりべしミュージアムロード共同展「**〇!**」
小川原脩記念美術館のテーマ「ふるさと・まるごと・風景画」
会期：開催中～9月24日(日)

■第2展示室

岸本春代展「Plants & Animals いきとしいけるもの」
臨場感あふれるオランウータンなどの動物たち、豊かに実る果実。圧倒の描写力、空想の物語が紡がれる作品世界をお楽しみください。
会期：開催中～9月24日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

おとなの手しごと (21) 「和紙バッグをつくろう」

日時：9月9日(土) 14時～16時
会場：ロビー（無料）定員：10名 ※中学生以上、親子可
お相手：沼田絵美（学芸員）、金澤逸子（学芸スタッフ）

京都逍遙 (12) 「王朝の面影を辿る」(前半)

日時：9月16日(土) 14時～14時45分
会場：映像ルーム（無料）お相手：金澤逸子（学芸スタッフ）

■ミュージアム・コンサート

友の会アフタヌーン・カンテレ・コンサート

フィンランドの民族楽器「カンテレ」が奏でる美しい音色を、初秋の情景に乗せてお楽しみください。
日時：9月23日（土・祝）14時～15時
会場：ロビー（要観覧料・申込不要）
出演：佐藤美津子さん（カンテレ奏者）
主催：小川原脩記念美術館友の会

倶知安風土館のお知らせ

■いきもの調査隊 「外来種・マダラコウラナメクジを探せ！」

日時：9月16日(土) 10時～12時 集合：百年の森公園
講師：小田桐亮（学芸員）、宮崎守（百年の森管理人）
定員：なし※予約不要 参加費：無料
持ち物：軍手、割り箸、飲み物、帽子など

■寺子屋ミュージアム 「石臼でキナコを作ってみよう」

石臼を実際に使って、大豆をひいてキナコを作ります。味見もしますよ。
日時：9月18日（月・祝）13時30分～16時00分 集合：倶知安風土館 参加費：無料
講師：今井真司（学芸補助員） 定員：10名 ※9月13日(日)までに電話申込（☎22-6631）

■ふるさと探訪 「硫黄の道・歴史を覗いてみよう！」

かつて硫黄採掘でにぎわったイワオヌプリ。今なお残る精錬所跡や住居跡を訪れてみませんか（少雨決行）。
日時：9月30日(土) 9時00分～15時30分 集合：倶知安風土館 参加費：250円（保険代）
講師：古市竜太さん（マウンテンガイド・コヨーテ主宰）
定員：10名 ※9月25日(月)までに電話申込（☎22-6631）



小川原脩記念美術館 ☎21-4141
観覧料：一般 500円(400円)
高校生 300円(200円)
小中学生 100円(50円)
倶知安風土館 ☎22-6631
観覧料：一般 200円(100円)
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時
入館は16時30分まで
※（ ）内は10名以上の団体料金
9月の休館日 毎週火曜日、
美術館のみ25日～10月6日
(展示替え)

家族旅行

母がまだまだ動ける今のうちに家族旅行をしておきたいと、少し早めの夏休みを取り、車で道東へ。

私の好きな神田日勝記念美術館に立ち寄りました。朝ドラでも有名になった神田日勝の「馬（絶筆・未完）」はやはり格別で、吸い寄せられるように絵の前に。ベニヤ板に描かれた半身の馬の瞳をのぞけば、さまざまな感情が一気にあふれ出し、思わず目をそらしては、また暫し見入ってしまう。強烈な生命力を感じる作品です。

このときの企画展では、帯広市出身である徳丸滋先生の作品も拝見することができました。

その後、同じ鹿追町にある福原記念美術館も巡り、屈斜路のホテルへ。母も楽しんでくれていたようでした。

館長 福原 秀和